



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）

代表：千葉茂樹

発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内

Tel 03 - 3479 - 3941 E-mail: info@signis-japan.org

http://signis-japan.org/

猛暑の続いた今年の夏を何とか乗り越えたと思っていたら、もう北の方から紅葉の便りが届く季節となりました。10月11日から「信仰年」が始まりました。これからの1年間は私たち一人ひとりが、改めて信仰について考え、その恵みを宣べ伝える時間となることでしょう。ロザリオの祈りを捧げつつ、「タリタ・クム！ 12号」をお届けします。

ニュース

教会・修道会ホームページ担当者交流会が行われました

去る9月22日土曜日にカトリック田園調布教会信徒会館で第16回 SIGNIS JAPAN インターネットセミナー「教会・修道会ホームページ担当者交流会」が行われました。22名の方が参加され、参加された方々が担当されている教会HPの紹介や全国の教会HP定点観測の報告がなされ、活発な意見交換が行われました。詳細は次号ご紹介いたします。



会員紹介

メディアを使った福音宣教

サンパウロ 大山聖一修道士

サンパウロは聖パウロ修道会の事業体としてメディアを使った福音宣教を行っています。2010年4月ローマで開かれた聖パウロ修道会総会は「デジタル大陸」という言葉を使い、携帯端末に至る福音の配信を促しています。また教皇ヨハネ・パウロ二世は、「マス・メディアと関係をもつことは、単に福音をのべ伝えることを強めることだけが目的ではありません……。（中略）ただキリスト教のメッセージや教会の本来の教えを広めるためだけにメディアを利用したのでは不十分なのです。そのメッセージを、現代の情報伝達によってつくられた『新しい文化』のなかに融合させることも必要なのです」（『救い主の使命』68～69ページ、カトリック中央協議会）と言っています。この教皇のことばに注意を払いながら、SIGNIS JAPANとともに活動できればと願っています。



地方からの便り

福岡から

サンパウロ 阿部光一修道士

東京から福岡に転勤して2年を過ぎました。こちらでのわたしの役割はお店（福岡宣教センター）を中心とした普及の仕事です。お店は東京と同じく、日曜祝日が休みですが、日曜日は福岡のみならず九州の他の県の教会に向き、ミサにこられる信徒の方々に書籍・用品の普及をします。また、1週間ほどかけて大分、宮崎、鹿児島、熊本と回って、主要教会にある売店のためのサービス、学校に伺っての図書普及をしています。さらに長崎センターのお手伝いも2日間あり、1ヶ月の半分くらいはお店以外で働いています。そんな訳でお店とともに自動車は大事な店舗なのです。お店で厳選した書籍・用品を積み込み、カーナビを酷使して、しかし安全運転で働いています。



守護の天使はさぞ忙しいだろうと思います。お店以上に多くの人に出会いますから、それもまた大切にしながら、それでいて実りの多いものだと思います。

今いる共同体はわたしともうひとりの司祭会員がいます。2人ではいるときはミサ、食事、夕の祈りと共同でしますが、わたしが抜けかけてしまうと司祭独りになってしまいますから、2人（来た当初は4人）という小さな共同体は若干寂しい感じがします。今まで15人以上のおおきな共同体に居ましたから……。しかし、東京以上に教会との繋がり、人と人との繋がりも多くて強く、わたしにとってはとてもありがたいものとなっています。SIGNISの皆様の働きをメールで拝見しながら、これからもいろいろな出会いを大切に生活していきたいと思っています。

あの日を忘れなれ - 東日本大震災

自立のために出来る支援を

東日本大震災から1年半が過ぎたが若林区周辺は、ここに今まで何があったか忘れるほど、更地が増えています。沿岸は草や木が茶色のまま、壊れた家そのまま、壊れた耕運機が山と積まれた畑、荒れた田んぼの光景です。

昨年3月11日、私は会員と盛岡に黙想に行く途中で東北新幹線に乗っていました。午後2時46分その時一瞬脱線するのではないかとという衝撃を受け、車内は騒然となり、余震のたびにあがる叫び声の中で恐怖を覚えながら車内でアナウンスの指示を待ちました。午後11時、列車から降り、雪の積もった線路を歩き、バスが待つ場所に行き、そのバスで盛岡の避難所に向かいました。避難所では400人ほどの方と2日間過ごし、3日目にJRが用意したバスで



仮設の鶴亀会のメンバー



生け花イベント

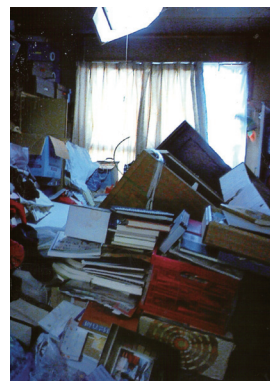
トに戻りました。半壊したアパートの修理も終わりきれいになりました。これまでのことは本当に感謝でした！ 私の所属教会の一本杉教会の活動として、若林区荒井地区の仮設住宅でのボランティアも、コーヒーを飲みながらおしゃべりし、歌を歌ったり、手品、人形作り、生け花等のイベントを通して、やっと笑いや冗談を言ったり、その時どうやって助かったかなどのお話が出るようになりました。

被災者と一緒に話をし、共に寄り添って、あなたを忘れないよという気持ちの大切さを、感じています。

今、仮設の方々が自立のために「福幸かえる」「福幸かめ」「福幸ふうせん」

「ポプリ」を集会所で作っています。少しでも自立のお手伝いできればと思い、知り合いの方々に広めています。(仙台中央地区広報委員、一本杉教会)

近藤京子



震災直後のアパートの中

仙台に戻りました。仙台駅はすごい光景になっていました。電話が通じなくて若林区にある私の住むアパートがどうなっているのかとても心配でした。やっとアパートに着き、ドアを開けると物が重なりあい、本箱が倒れ、中に入れない状態でした。その日は30分歩いて親しい信者さんの家に泊めてもらいました。翌日から私の放浪の避難生活が始まりました。電気もガスもなく、食糧も店の前に2時間並んで一つ買えばよいほうでした。信者さんの家で避難生活を送りながら食糧の調達と、毎日アパートに行き、片づけする日々。余震が続く中、2週間を過ぎた頃、別の知人のところにお世話になり一緒に片づけも手伝ってもらい1カ月後アパー



「福幸かえる」「福幸かめ」

お勧め映画紹介

放射能を浴びた【X年後】

鵜飼恵里香

ビキニ水爆実験といえば、新藤兼人監督の「第5福竜丸」で有名だが、その被害者は、文字通り第5福竜丸の乗組員だけだと思っていたのは私だけではないと思う。元高校教師山下正寿氏の20年にわたる調査によると消息の分かった被災乗組員だけでも200名以上、その3分の1が死亡しているというのが実体だとこの映画を見て初めて知った。その上、たった200万ドルと引換に日本政府はその罪を追究することはなかったという。何故200万ドルなのか。この映画を見ていて憤りを禁じ得なかった。その上、アメリカの資料をていねいに調べていくともっと恐ろしいことに突き当たる。アメリカは、その後の放射能の被害想定までしていたという。その状況も映画の中に映し出されるが、その状況を見て愕然としてしまった。そのうえ、アメリカに対する理不尽さとともに、日本の対応にも腹が立ってきてしまった。

当初NNNのドキュメンタリー番組として回を重ねて放映されても反響のない状況に監督の伊東氏は限界を感じたというが、2011年3月11日、福島原発事故をきっかけに今だかこぞ投げかけるいいチャンスではないかと考え、これまで蓄積した情報の集大成として映画化することに踏み切ったという。

私にとって、この映画は当時の日本とアメリカを告発するというものではなく、今起こっている福島原発の事故を受けて何が起こるのかそのX年後に警鐘を鳴らす映画といってもいいのではないかと思います。

